計，出版会計，研究会計，FISITA会計の報告が行なわれ，審議の結果異議なく承認可決された．(別掲)

(3) 昭和40年度事業計画の件

本件吉城常任理事より別紙計画案にもとづき説明があり，審議の結果承認可決された．

(4) 昭和40年度予算に関する件

本件大野担当理事より一般会計，研究会計の予算について説明が行なわれ，審議の結果異議なく承認可決された．(別表)

▶第19回通常総会

昭和40年5月19日(水) 10:55～11:25．学士会館2階講堂で開催．

出席者：(1) 出席会員：58名．

(2) 委任状提出会員：1,688名．

注： 正会員数：5,549名 (40年3月31日現在)

議 事：事務局より上記のごとく出席者数，委任状提出者数を報告定款第18条の定めるところにより第19回通常総会成立の旨発表し新山会長議長となりつぎのごとく議案を審議した．

第1号議案：昭和39年度事業報告の件

本件について吉城常任理事より昭和39年度事業報告書により報告があり，異議なく承認可決された．

第2号議案：昭和39年度決算報告の件

本件について大野会計担当理事より一般会計，出版会計，研究会計，FISITA会計について決算報告が行なわれ審議の結果異議なく承認可決された．

ついで前田監事より39年度決算について監査の結果は，適正妥当である旨の報告があつた．

第3号議案：昭和40年度事業計画の件

本件について吉城常任理事より40年度事業計画案について説明が行なわれ審議の結果承認可決された．

第4号議案：昭和40年度予算に関する件

本件について大野会計担当理事より別紙予算案についてそれぞれ説明が行なわれ審議の結果異議なくこれを承認可決された．

▶第15回自動車技術会賞授賞式

5月19日 11:25～12:10 学士会館において開催．

田中審査委員長より審査の経過報告があり，つづいて浅原名誉会員のあいさつならびに新山会長のあいさつののちつぎの3君が授賞された．(別掲理由)

兼重一郎君 (いすゞ自動車・研究部)

小林節夫君 (日本発条・技術部)

葛生 秀君 (日野自動車・実験部)

▶春季学術講演会

5月19日 9:30～17:30 学士会館で2会場にわかれ23の講演発表が行なわれた．両会場とも満員の盛況で，亘理・山本・近藤・吉城・竹中平尾・田中の各先生が座長をされた．

(講演表題は本誌 Vol. 19, No. 5, 1965. p. 420. 技術会通信欄に掲載)

▶春季大会工場見学会

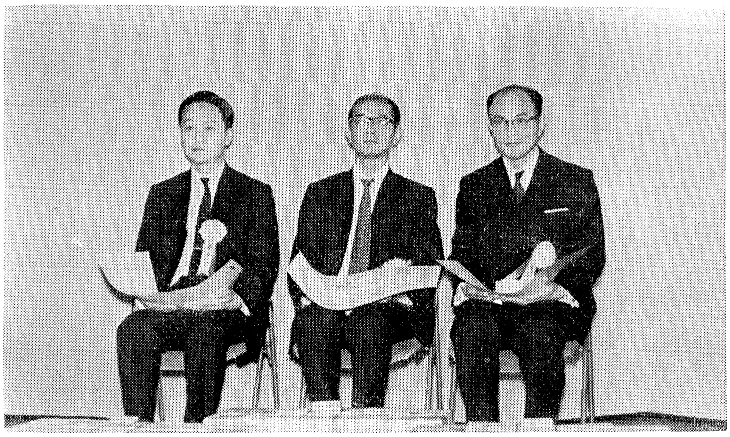
(1班) 日本ピストンリング・与野工場
田中計器工業 (参加者100名)

(2班) いすゞ自動車・藤沢工場
会田鉄工所 (参加者105名)

(3班) 日産自動車・追浜工場
東京芝浦電気・横須賀工場 (参加者100名)

(4班) プリンス自動車・村山工場
富士重工業・三鷹製作所 (参加者110名)

(5班) 日立製作所・多賀工場
日本原子力研究所(東海村) (参加者30名)
古河電池・保土ケ谷工場
日本オイルシール・藤沢工場 (参加者30名)



左から兼重，小林，葛生の授賞者諸君

賞　　状

一、統計的手法による機関支持の
車体振動におよぼす影響の研究

いすゞ自動車株式会社
兼　重　一　郎　君

右は自動車の振動乗心地の研究に統計的手法を導入し、とくに機関支持の車体振動におよぼす影響について、理論ならびに実験による解析を行なってその振動特性を解明し、わが国の自動車工学に関する学術の向上に大きな寄与をなした．

本会は審査の結果、その自動車工学向上に寄与する功績が顕著であることを認め、第十五回自動車技術会賞を授与する．

昭和四十年五月十九日

自動車技術会賞審査委員会委員長
田　中　敬　吉

社団法人　自動車技術会会長
新　山　春　雄

賞　　状

一、自動車用重ね板ばねの研究

日本発条株式会社
小　林　節　夫　君

右は自動車用重ね板ばねについて多くの研究を行なうとともに、とくにその非線型特性、横振動および衝撃問題を理論ならびに実験的解析によって解明し、自動車工学および機械要素設計に関する学術の向上に大きな寄与をなした．

本会は審査の結果、その自動車工学向上に寄与する功績が顕著であることを認め、第十五回自動車技術会賞を授与する．

昭和四十年五月十九日

自動車技術会賞審査委員会委員長
田　中　敬　吉

社団法人　自動車技術会会長
新　山　春　雄

賞　　状

一、光弾性皮膜法による
自動車の応力測定実験技術の開発

日野自動車工業株式会社
葛　生　　秀　君

右は近年欧米で発明された光弾皮膜法をいち早く自動車部品における静的および動的応力分布の検討に利用する道を開発し、自動車の品質向上と軽量化に貢献した・光弾性皮膜法には取扱いのむずかしい合成樹脂を駆使しなければならない上に、外国製の材料が極めて高価であるため、その技術開発には大きな忍耐を要し、また部材への応用にも開発の余地が広く残されていたが、本研究はこれらの困難を他にさきがけて克服し応用の範囲と実験の精度を拡大した．

本会は審査の結果、その自動車技術向上に寄与せる功績顕著なるを認め第十五回自動車技術会賞を授与する．

昭和四十年五月十九日

自動車技術会賞審査委員会委員長
田　中　敬　吉

社団法人　自動車技術会会長
新　山　春　雄